



Est. 1912

まこと館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



🎉🌸🌈🌿🎉 ~新年あけましておめでとうございます。~ 🎉🌸🌈🌿🎉

新年のご挨拶を申し上げるとともに皆様の日頃のお働きに感謝申し上げます。2年にわたる新型コロナ感染症は今年もまだまだ楽観は許されないかと思いますが、これまで通り私たちができる感染予防を続け、正しく恐れ、ワクチンや薬に期待して「ウィズコロナの時代」に落ち着くことを望みます。

振り返れば、去年のオリ・パラはコロナ禍にあっても頼もしい若者たちの活躍に日本中の人々が歓喜に包まれました。特にパラリンピック選手の一人一人の活躍は本当に感動、勇気づけられました。

2021年6月に第9代目の理事長になり、そして2022年（令和4年）は法人創設110周年を迎えます。ひとえに関係する皆様のご支援のたまものと感謝いたします。至誠学舎は110年の歴史の中、火災で家屋を焼失するなど時代の節目にいろいろな苦難を何度も乗り越えてきています。今回のコロナパンデミックが収束しても、世界に大きな価値観やパラダイムの変換が迫っています。私たちは地域社会に根を下ろし、これからの世界的課題である地球の気候変動と自然災害、テクノロジー、感染症などに対して真剣に取り組んでいかなければなりません。法人としてできる限りの責任を果たすことに真摯に取り組んでいきたいと思っています。これから法人中長期計画の後半がスタートを切りますが、各事業本部がそれぞれの課題を明確にして、法人全体で希望を以って進んでいきたいと思っています。

本年も皆様にとって良い年でありますことをお祈りいたします。

理事長 稲永 勝行



本部事務局だより ②（お金儲けに対する意識）

お正月といえばお年玉である。子供の頃のワクワク感が思い起こされる。さて、今回はお金の話②「お金儲け」の話である。もちろん世界的に見ても「あくどく金儲けする」ことは悪である。しかし、世界的には、アップルの創業者のように、正当にビジネスでお金を儲け、お金持ちになった人が尊敬されるのが通常である。一方、日本人は「お金儲けは悪だ」「悪いことをしなければ金儲けなどできるわけがない」と考えている。従って、先般、宇宙に行った〇〇さんのような、お金持ちに対する風当たりが大きい。

しかし、日本人が昔からそう考えていたか、と言うとそうではない。江戸時代も明治時代も起業して商売を始め、大店(おおだな)を築いた人は尊敬を集めた。ではいったい、いつから「金儲け」イコール「悪」になったのか？それは、先の大戦中、戦費を調達する為に「欲しがりません勝つまでは」という標語にあるように「清貧こそ善、金儲けは悪」という「皇国労働観」の刷り込みが日本人の中にお金に対する禁忌感を増幅・定着させたのだ。その結果、日本人は、少ない賃金でコツコツと働き続けることが善であるという意識が強く定着し、新たに起業する人が世界的に見ても少ない社会になってしまっている。起業するためには、高い事業意欲と意識が必要であるが、起業する人が正しく評価され、尊敬を集める社会になってほしいものである。

(法人事務局長 野島 忠幸)

事業本部情報

児童事業本部

「新たな気持ちで今日をはじめましょう」

私が大人として至誠学園の子どもたちとかかわることになったのは、学園にボーイスカウトの団ができ指導者となったことからでした。大学卒業後は児童指導員として子どもたちとの生活がはじまりました。生活そのものが仕事というのはとても創造的で、工夫と新たな発見の連続で毎日が楽しく充実していました。子どもたちをおおぜい連れて出かけるときなど、町で出会った人から「大変ですね」と声をかけられると返答に困ったものです。

私が現役のころ、年始に来た卒園生たちと話に花が咲き「お兄さんはいつも夢をもっていたよね」と言われてとても嬉しかった思い出があります。子どもたちを育てるなかには大変と感じることも多々ありますが、それを忘れる楽しさや充実感を持つことができます。私たちが、子どもや利用者の力や可能性を理解し、夢や希望を持って共にいられることに喜びや楽しさを感じることでよい支え手になれるのではないかと思います。

(至誠障害福祉総合センター長 高橋久雄)

保育事業本部

明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりありがとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

新しい年の第一報ということで緊張しておりますが、代々木至誠こども園のご報告をさせていただきます。今年度節目となる10年目です。怒涛の中立ち上げて出発してから10年、多摩から渋谷区の地でのお仕事で心配はありましたが、渋谷区保育課を始め地域に受け入れ、保護者と共に歩んでこれたことに感謝いたします。法人にとっても初めての認定こども園で新たなチャレンジをしてきました。「10年ひと昔」と言われますが、現代においては5年でしょうか？これまでを振り返り思うことは、学卒の新人14名と異動12名でスタートして確か5年経過したころにふと、新人が退職していないことに気が付き、園長としてとても嬉しく誇りとなりました。現在も異動者含め10人が当法人でお仕事しています。“人は宝”この人材不足の中実感しています。これからも共に学び成長できる環境を大切にしていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくご指導ご鞭撻ほどお願い申し上げます。

(代々木至誠こども園園長 稲永裕子)

高齢事業本部至誠ホーム

「新型コロナ」という言葉を聞いて、すでに2年近くが経過。その間、ウイルスとの闘いは生活様式を大きく変化させ、様々な制限をもたらした。大きな行事やボランティアさんの活動も制限された。その中でも特に影響の大きいものが、家族との交流の変化。面会制限をお願いしたのが2020年2月。以降、1年半以上も直接会うことができないままの入居者も多数。オンラインでの面会や施設からの文書に写真を添付したりと、様々な工夫はしたが、とても心苦しいものであった。

10月、感染状況の落ち着きを受け「アクリル板越し」ではあるが対面での面会を再開。久しぶりの再会で感動の場面も。その中で家族から頂いた印象的な言葉が「1年半ぶりだけど全然変わってなくて安心しました」というもの。変化があれば連絡は密にし、オンラインでの機会もあったが、直接会うという安心感に勝るものはない。

そしてコロナ下、できなかったことを挙げればキリがない。しかし多くの制限がある中、「変わらない」を支えた日々の取り組み、そのこと自体の価値を実感できる言葉を頂いた。

(至誠ホームオン二 園長 宮本智行)

(編集後記) 明けましておめでとうございます。マスク生活はまだまだ続きそうですが、今年も感染症には気を付けて健康で元気な一年でありますように！(小)